

無事故でお正月を

今年も、いわて年末年始無災害運動が十二月一日から始まりま

す。採石業は、気象条件をはじめとする自然環境の影響を受けやすい仕事です。冬季を迎え思わぬ機械のトラブルやスリップ、転倒など夏季では考えられない災害要因が増える時期となります。全員無事故で運動期間を終えられるよう、まずは身近な危険要因を取り除く工夫と努力をしていきましょう。



発行



新社長の履歴書⑧ (35歳頃)



前回までの認知度ゼロの「フクタ石材部」で、どう営業したかの続きですが、当時は墓石をチラシなどの広告という手法は使いにくい商材でした。なので

「墓石のお話」というワンポイント豆知識という感じで、毎週チラシに小さく記事として載せていきました。直ぐの効果はないにせよ、じわじわと認知度は上がっていったように思います。その後、八戸方面の墓石店が折り込み広告を二戸地方に入れ始めたので、解禁との思いで折り込みチラシを我が社も始めたのでした。その後は、駅周辺の新幹線の区画整理もあり、石切所にあった工場事務所を今の福田に移転することにしました。その機会にテント式の屋内展示場を造り、完成品を雨や冬期間でもゆっくり見ることが出来るようにし、また価格などはっきり表示することで見やすくわかりやすい展示場を造ったのでした。その後は、徐々に売り上げも増えていき、独立採算でもなんとかやっていけるぐらいの売り上げを確保できるようになったのでした。・・・(続く)

ハンドルが???

キャタピラ社のホイールローダー966Kのデモをさせていただいた。次世代機が登場するたびに操作性、燃費性能、乗り心地等が改善され進化している。



今回のデモ機の目玉は、**ハンドルがない**ことである。運転座席左側にあるレバー1本で左右の方向を変え前後進を行う。今まであったものがないと間が抜けたようで心もとない気がするが、あにはからんや、試乗した面々は好評価であった。食わず嫌いはいけないのである。



～ドローンの飛んだ日～

地図は便利である。どこに何があるか、次の交差点まで何mあるのか、畑の広さはどれくらいあるのか、色々なことがわかる。地図を作成するためには、地形の測量が必要である。200年前、伊能忠敬は『大日本沿海輿地全図』を完成させるため測量に17年を費やしている。

しかし、この伊能図も海岸線の輪郭を表しているだけである。それほど大きな立体である地球を、正確な縮尺で平面に置き換えることは難しいことであった。(はずである。)

現在の地(形)図は、縦・横・高さの情報を持っている。高さの情報があるおかげで、この地形のこれくらいの面積で、10m掘り下げると何m³採掘出来るかがわかる。また最近にはさらに詳細な地形データにより、自動車の自動運転も可能になった。そのデータを得るための測量も現在ではドローン(命令を受けて自律飛行する飛行物体)により画像処理で可能となった。技術の進歩は目覚ましい。近い将来、今月は何m³採掘したのかをリアルタイムでわかる日が来るであろう。楽しみである。



24Vバッテリー2ヶで
秒速6mで飛びます!



門前町を歩いて

伊勢神宮内宮参拝の機会を得た。2年前に式年遷宮を終えた内宮は、やはりなんとも言われぬ壮厳で神聖な趣があった。内宮の門前には、おはらい町という門前街がある。その中には、全国的にも有名な赤福の本店や岩戸屋など古くからの老舗もあるが、銀行、郵便局、コンビニなど明らかに最近の建物とおぼしき建物も、しっかりと景色の一部になっている。街並み自体が肩を組んで訪れる人に安心感を与えているのである。一つの主題によりまとまる姿は美しいものである。



編集後記

先日、二戸産業廃棄物協会の研修視察会で、5ヶ所訪問させていただきました。廃棄物は分別が大切で、その分別は人の手でなくてはできないということをどの処分場でも感じてきました。